

第26回 TAFISA ワールドコンGRESS 2019東京

スポーツくじ



本事業はスポーツ振興くじの
助成を受けて実施しています

スポーツ・フォー・オール ～伝統と革新～

報告書

期日：2019年11月13日(水)～11月16日(土)

会場：都市センターホテル・麹町中学校



26th TAFISA
WORLD CONGRESS
TOKYO 2019



統括団体 | TAFISA
The Association For International Sport For All

主催 | 日本スポーツ協会
Japan Sport Association

公益財団法人
健康・体力づくり事業財団
JAPAN HEALTH PROMOTION & FITNESS FOUNDATION

笹川スポーツ財団
SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

公益財団法人
日本レクリエーション協会
National Recreation Association of Japan

後援 | スポーツ庁 厚生労働省

公益財団法人
日本オリンピック委員会

公益財団法人
日本障がい者スポーツ協会
JPSA

特別協力 | 東京都

コンGRESSスポンサー | キャラバンジャパン

株式会社社会保険研究所

NPO法人日本健康運動指導士会

協力 | WORLD MASTERS GAMES
2021 KANSAI
JAPAN

TAFISA ワールドコンGRESS歴代開催地・テーマ

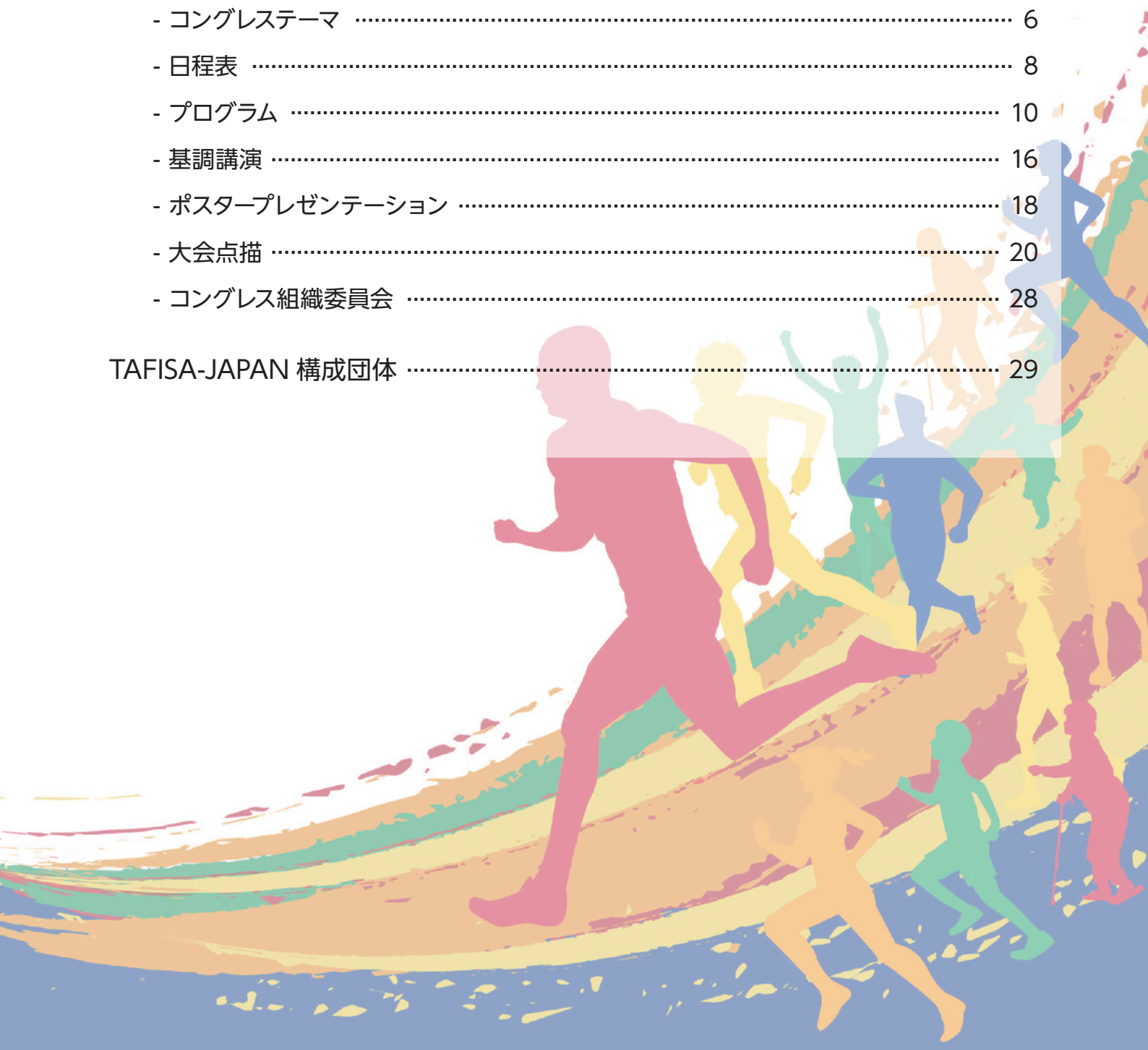
回数	開催年	開催地(開催国)	会議テーマ(和訳)
第1回	1969(昭44)	オスロ(ノルウェー)	トリムの発祥
第2回	1971(昭46)	アーネム(オランダ)	スポーツ・フォー・オール of 広報
第3回	1973(昭48)	フランクフルト(ドイツ)	新たな国での発展
第4回	1975(昭50)	ワシントン(アメリカ)	コミュニティとトリム
第5回	1977(昭52)	パリ(フランス)	モチベーション
第6回	1979(昭54)	リスボン(ポルトガル)	スポーツ・フォー・オールとゲーム
第7回	1981(昭56)	ミュンヘン(スイス)	休暇とトリム
第8回	1983(昭58)	ストックホルム(スウェーデン)	都市とスポーツ
第9回	1985(昭60)	アイスル島(イギリス)	生活の質とスポーツ
第10回	1987(昭62)	オスロ(ノルウェー)	不活発な場所を発展させる
第11回	1989(平1)	トロント(カナダ)	スポーツ・フォー・オールと質
第12回	1991(平3)	ボルドー(フランス)	スポーツ・フォー・オールの新戦略
第13回	1993(平5)	千葉(日本)	21世紀を展望したスポーツ・フォー・オール of 戦略
第14回	1995(平7)	ナタニア(イスラエル)	スポーツ・フォー・オールにおけるプログラムの役割
第15回	1997(平9)	ペナン(マレーシア)	スポーツ・フォー・オールと生活の質
第16回	1999(平11)	リマソール(キプロス)	新世紀とスポーツ・フォー・オール of 挑戦
第17回	2001(平13)	ケープタウン(南アフリカ)	地域形成の装置としてのスポーツ・フォー・オール
第18回	2003(平15)	ミュンヘン(ドイツ)	スポーツ・フォー・オールにおけるボランティア
第19回	2005(平17)	ワルシャワ(ポーランド)	未来に向けての貢献
第20回	2007(平19)	ブエノスアイレス(アルゼンチン)	ソーシャル・キャピタル構築の挑戦
第21回	2009(平21)	台北(台湾)	アクティブな世界を目指して
第22回	2011(平23)	アンタルヤ(トルコ)	架け橋の構築: 連携
第23回	2013(平25)	エンスヘーデ(オランダ)	持続可能性とスポーツ・フォー・オール
第24回	2015(平27)	ブダペスト(ハンガリー)	スポーツ・フォー・オール～最高のレガシー～
第25回	2017(平29)	ソウル(韓国)	アクティブワールド 2030～新しい地平線を目指して～
第26回	2019(令1)	東京(日本)	スポーツ・フォー・オール～伝統と革新～

※ TAFISA-JAPAN 理事会において「スポーツ・フォア・オール」を「スポーツ・フォー・オール」へ変更しているため、本表では「みんなのスポーツ」「生涯スポーツ」「スポーツ・フォア・オール」などすべて「スポーツ・フォー・オール」に統一しています。

【引用文献】 財団法人健康・体力づくり事業財団: トリム・フィットネス・生涯スポーツ, 体力づくり情報 Trim Japan No.39, 38-40, 1994.
 山口泰雄: 世界の生涯スポーツの潮流, 生涯スポーツの社会経済学, 池田勝 編著, 杏林書院, 20-30, 2002.
 山口泰雄: 21世紀におけるスポーツ・フォー・オール of 国際動向を探る-国際団体の動向と国際会議に着目して-, 生涯スポーツ学 研究 11(1), 1-12, 2014.

目次

ご挨拶	2
第 26 回 TAFISA ワールドコンGRESS 2019 東京	
- 大会概要	4
- 参加人数 / 参加国・地域	5
- コンGRESS テーマ	6
- 日程表	8
- プログラム	10
- 基調講演	16
- ポスタープレゼンテーション	18
- 大会点描	20
- コンGRESS 組織委員会	28
TAFISA-JAPAN 構成団体	29



ご挨拶



Prof. Dr. Ju-Ho Chang
President, TAFISA



Dear TAFISA Family, distinguished guests,

On behalf of the Global Sport for All Movement, it is my great privilege to welcome you all here in Tokyo, Japan, to the joint event day with Smart Cities and Sport Summit which is also the official Opening of the 26th TAFISA World Congress.

It fills me with immense pride and joy to look around the room and see more than 600 people from 78 countries and regions; this is a huge testament to the strength of the Global Sport for All Movement. Undeniably, across the next four days Tokyo will be the global capital of Sport for All.

After the successful 13th TAFISA Congress in Chiba back in 1993, here we are, back in Japan, for the second time in the history of the TAFISA Congress. Thank you, Japan, for this great loyalty to the Sport for All movement.

I would like to share my deep appreciation to the Smart Cities and Sport Network and the President of World Union of Olympic Cities, Mr. Gregoire Junod, who are here with us today to join forces together and build the communities of tomorrow through Sport for All.

Furthermore, I sincerely thank our friends from TAFISA Japan and the Organising Committee of the Congress, who have worked tirelessly to ensure that we can be here tonight in this moment, to open 4 days of historical Congress. A special thanks goes to the President of the Organising Committee, Mr. Masatoshi Ito.

I also wish to express our gratitude to the Japan Sports Agency, Tokyo Metropolitan Government and Japan Olympic Committee, for their close cooperation which ensures this gathering of the Sport for All family in the city of the 32nd Olympic Games will be crowned with success.

As we all know, for the first time in history, TAFISA has joined forces with another world leading organisation - the World Union of Olympic Cities. The Sport for All Movement is an integral part of our society. We therefore have the moral obligation and sense of humanitarian duty to seize the opportunities in front of us to make the world a better place through Sport for All. Our partnership with the Smart Cities and Sport Summit will empower cities and members of society to fight the physical inactivity epidemic and to achieve social, economic and environmental goals through sport and physical activity. After all, the physical inactivity epidemic cannot be tackled alone, alliances are compulsory.

The world has certainly changed in the last century, yet on the economic level the gap continues to widen between industrialised nations and developing and underdeveloped countries. This explains our heightened and ongoing concern to provide technical and financial assistance to all national Sport for All associations, and particularly to those in a disadvantaged region for the development of sport in their respective countries.

"Olympism", Coubertin said as early as 1913, "has not reappeared within modern civilization in order to play a local or transient role. The mission entrusted to it is universal and secular. It is ambitious; it must have all of space and time". The same applies to Sport for All.

During the last General Assembly in Seoul 2017, TAFISA's Mission 2030: "For a Better World Through Sport for All" was adopted as the guiding document for a global strategy to fight the worldwide physical inactivity epidemic. My wish is for the Tokyo Congress to create momentum as a strong driving force and strategy to implement Mission 2030.

Under the theme of "Sport for All through Tradition and Innovation", the Congress aims to draw inspiration from the Japanese reality by exploring the paradox between the contemporary relevance of tradition and the modern field of innovation. Let us look together at how we can collectively rejuvenate Traditional Sports and Games whilst also acknowledging new ideas, new technologies and new concepts to encourage all people to be physically active. Sport for All require both Tradition and Innovation to grow stronger in the future.

With this said, I wish the Congress all the success. May the Tokyo Congress be held in peace, in the true spirit of the Sport for All movement.

Thank you.

ご挨拶

会長 **伊藤 雅俊**

第26回 TAFISA ワールドコンgres 2019 東京組織委員会
日本スポーツ・フォー・オール協議会 (TAFISA-JAPAN)



第26回 TAFISA ワールドコンgres 2019 東京は、関係各位のご協力のもと成功裡に終了いたしました。

コンgresの日本での開催は、1993年の千葉県以来、2度目となりました。

世界78か国・地域から638人の方々にご参集いただき、「スポーツ・フォー・オール～伝統と革新～」のメインテーマのもと、活発な議論が展開され、参加者がそれぞれの立場で活かすことができる有益な情報を共有し、生涯スポーツ社会の実現に向けた実り多い会議であったと確信しております。

我が国では、2019年に開催されたラグビーワールドカップ、2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会、そして2021年のワールドマスターズゲーム2021関西と3年連続してスポーツのメガイベントが開催されるゴールデン・スポーツ・イヤーズを迎えています。

このようなタイミングで、今回のコンgres参加者が創出したアイデアやネットワークが、レガシーとして、日本国内はもとより、全世界に広がることを大いに期待しています。

世界170か国・地域に320を越える団体を有するスポーツ・フォー・オールの国際統括団体であるTAFISAは、2030年までにより良い世界を創造する『TAFISA Mission 2030』を掲げております。

TAFISA-JAPAN(構成団体:日本スポーツ協会、健康・体力づくり事業財団、笹川スポーツ財団、日本レクリエーション協会)といたしましても、ミッション達成に向けて貢献できるよう、関係する多くの組織と協力し、我が国はもとより、国際的なスポーツ・フォー・オール運動の推進に努めて参りたいと考えております。

本書には、コンgresの基調講演の要約や各プログラムの写真等、その概要を収載しております。

開催にご協力いただきました関係各位へのご報告と、一層の発展のための資料としてご活用いただければ幸甚に存じます。

今回の開催にあたり、早期から諸準備にご尽力いただいた関係各位に厚くお礼申し上げますとともに、皆様方の今後益々のご活躍とスポーツの未来への発展を祈念して、発刊のあいさつといたします。

大会概要

- 1. 名称** 第26回 TAFISA ワールドコンGRESS 2019 東京
- 2. 期 日** 2019年11月13日(水)～16日(土)
- 3. 会 場** 都市センターホテル(東京都千代田区平河町 2-4-1)
翫 町 中 学 校(東京都千代田区平河町 2-5-1)
- 4. 主 催** The Association For International Sport for All ; TAFISA
TAFISA-JAPAN
公益財団法人日本スポーツ協会
公益財団法人健康・体力づくり事業財団
公益財団法人笹川スポーツ財団
公益財団法人日本レクリエーション協会
- 共 催** World Union of Olympic Cities ; オリンピック開催都市連合
(11月14日は Smart Cities & Sport Summit との合同イベントとして開催)
- 後 援** スポーツ庁 厚生労働省 公益財団法人日本オリンピック委員会
公益財団法人日本障がい者スポーツ協会
- 特別協力** 東京都
- 協 力** 公益財団法人ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会
- 協 賛** 株式会社キャラバンジャパン 株式会社社会保険研究所
NPO 法人日本健康運動指導士会
- 5. 対 象** 行政、研究者、スポーツ関連団体、スポーツクラブ、スポーツ指導者、スポーツ産業、
メディア等
- 6. 参 加 費** TAFISA 会員 48,000 円 非 TAFISA 会員 62,000 円 学生 25,000 円
一日券 一 般 11/14 13,000 円 11/15 12,000 円
学 生 11/14 8,000 円 11/15 8,000 円
運動会 11/16 2,000 円

※日本スポーツ協会公認指導者義務研修及び健康・体力づくり事業財団認定健康運動指導士・健康運動実践指導者の登録更新単位の取得可

参加人数 / 参加国・地域

■参加人数 638名

上記のうちオリンピック開催都市連合から合同イベント(11月14日)に参加 129名

■参加国・地域 78か国・地域

●AFRICA

Botswana
Cameroon
Egypt
Ghana
Libya
Mauritius
Morocco
Mozambique
Nigeria
Rwanda
Senegal
Sierra Leone
South Africa
Tanzania
Togo
Uganda

●AMERICA

Antigua & Barbuda
Argentina
Brazil
Canada
Guatemala
Honduras
Mexico
Peru
St. Lucia

St. Vincent

Trinidad W.I.

U.S.A.

●ASIA・OCEANIA

Australia
China
Hong Kong, China
India
Indonesia
Iran
Israel
Japan
Kazakhstan
Korea
Macau, China
Malaysia
Mongolia
Nepal
Pakistan
Palestine
Philippines
Qatar
Saudi Arabia
Singapore
Sri Lanka
Chinese Taipei
Thailand

●EUROPE

Austria
Belarus
Belgium
Bosnia & Herzegovina
Croatia
Cyprus
Denmark
Finland
France
Germany
Greece
Hungary
Italy
Latvia
Netherlands
Norway
Poland
Portugal
Romania
Russia
Serbia
Slovenia
Spain
Sweden
Switzerland
Turkey
United Kingdom

コンgresテーマ

■スポーツ・フォー・オール ～伝統と革新～

“Sport for All through Tradition and Innovation”

メインテーマである「スポーツ・フォー・オール ～伝統と革新～」は、伝統技術・伝統文化を尊重しながら、革新的な技術やサブカルチャーなどを通じて時に世界をリードする日本のイメージにインスピレーションを得て設けられました。

スポーツ・フォー・オールの分野に置き換えると、鬼ごっこやかけっこなどの伝統的な遊びは、世代を問わず身体を動かす楽しさを喚起し、ウェアラブルデバイスや位置情報アプリを使ったウォーキングなどに象徴される技術革新や革新的なアイデアは、個々の身体能力を問わず、誰でもスポーツを気軽に楽しめる環境づくりに役立てられています。

このメインテーマには、誰でもいつでも、どこでもスポーツを楽しめる「スポーツ・フォー・オール社会」の実現に必要な伝統と革新について、多くの皆さんとともに考えたいという思いが込められています。

■サブテーマ

スポーツが幸せな長寿を創る “Happy Aging”

社会全体の急速な高齢化は日本に限らず世界の各所で進んでおり、高齢者の社会からの孤立は多くの国で社会問題化しています。私たちは、この問題に焦点を当て変化をもたらすことができると考えます。スポーツ・フォー・オールムーブメントは、高齢者の健康増進に貢献するだけでなく、彼らの孤立を解消し、社会全体のちゅうたい紐帯を促すものと考えているからです。

Made to Play[※]

子どもも大人も誰もが、“Play (遊ぶ・楽しむ・発散するなどの行為の総称)” するために生まれたとって過言ではありません。しかし、私たちはいつしかそのことを忘れ、しばしば Play することを時間の無駄だとみなすこともあります。私たちは、Play を通じて、身体を動かすことの大切さを知り、創造性を高め、独立心を養い、身体的・精神的な強さを身につけ、自身をとりまく文化や環境との調和を図ることができるのです。

※ Made to Play は、TAFISA の支援組織である NIKE による子どもの身体活動増進プログラムの名称です。

スポーツ政策を形成する “Design Your Policy”

スポーツ・フォー・オールの推進に携わる私たち自身は、それがもたらす多様な恩恵について理解しています。しかし、その恩恵を多くの人たちと共有し、実感できているのでしょうか？ どうすれば、スポーツ・フォー・オールを、今、直面するさまざまな課題への解とすることができるのでしょうか？ 私たちは、スポーツ政策の形成が答えのひとつと考えます。

すぐれた政策には、持続可能な変化・進化を実現し、永続的なレガシーを生み出す力があります。逆に明確に定められた政策がなければ、市民はどこに進むべきかもわからなくなります。スポーツ・フォー・オールをいかに、すぐれた政策に落とし込めるかは非常に重要なテーマです。

スポーツとコミュニティ形成 “Building Communities”

スポーツ・フォー・オールは、社会において人と人をつなぐ架け橋となり、相互理解を深める役割を果たします。世界レベルで見れば平和の実現にも貢献し、国や自治体レベルで見れば市民同士の絆を強めることにも役立ちます。スポーツ・フォー・オールを通じて、人々は、国や文化、宗教、世代、持てる能力などの違いを超えてコミュニティを形成することができるのです。

スポーツ・イノベーションが社会を変える “Impact through Innovation”

イノベーションは時に世界を変えます。イノベーションは現状の習慣を打ち破り、新たな流行を生み出すものです。スポーツの分野におけるイノベーションは、よりアクティブなライフスタイルを創造することにも寄与するでしょう。その延長線上に、新たな技術や新たなスポーツの開発があり、私たちがターゲットグループとする非運動実施層がスポーツに気軽にアクセスできる環境の創出があると考えます。

■合同イベント “Smart Cities & Sport Summit”

「第26回 TAFISA ワールドコンgres 2019 東京」は、スイスのローザンヌに本拠をおくオリンピック開催都市連合による「Smart Cities & Sport Summit」と初の合同イベントを実施しました。

11月14日の合同イベントでは、「スポーツとコミュニティ形成」を全体テーマに、「都市における身体不活発」「イノベーション」「パートナーシップ」などのサブテーマを設け、活発な意見交換が行われました。世界各国の自治体、中央省庁、生涯スポーツ推進組織、オリンピック委員会の関係者、国際競技団体や国際機関の関係者など、スポーツ・フォー・オールに関するあらゆる分野から600人以上の参加があり、成功裡に終了しました。

Smart Cities & Sport は、効果的で持続可能なスポーツ振興施策・戦略について学び、各国のスポーツ分野の重要な関係者とつながりたいと考えるすべての自治体関係者に開かれた唯一の国際ネットワークです。年1回開催されるサミット (Smart Cities & Sport Summit) では、世界各国の自治体に共通するスポーツ分野の課題が議論されると同時に、連携や協働の機会を見出すセッションも設けられます。いわば、自治体関係者向けに特別にしつらえられた会議といえます。毎回、様々な国から60以上の自治体の関係者が参加しています。国際的なスポーツイベントの開催を目指して参加する方、自分たちのまちに健康的なライフスタイルを普及させる方法を学びたいと考える方など、参加者の目的は多様ですが、Smart Cities & Sport は、そうしたニーズに応えられるだけの新たなアイデアや情報を交換できる、最も質の高く権威あるプラットフォームと言えます。

日程表

WEDNESDAY 13 th NOVEMBER		THURSDAY 14 th NOVEMBER				
9:00		Congress Registration (9:00 – 9:30) @ 2F				
9:30		TAFISA World Congress Opening Ceremony and Opening of the Smart Cities & Sport Summit and 26 th TAFISA World Congress Joint Day (9:30 – 11:00) @ 3F Cosmos Hall				
10:00						
10:30						
11:00		Break @ 3F / Poster Opening @ 7F Room 707 , 708 (11:00 – 11:30)				
11:30		Building Bridges Smart Cities & Sport and the Sport for All Movement (11:30 – 12:30) @ 3F Cosmos Hall				
12:00						
12:30		Lunch & Networking (12:30 – 13:30) @ 6F				
13:00	Regional Meetings [Asia/Oceania] (13:00 – 15:00) @ 7F Room 707	Regional Meetings [Americas] (13:00 – 15:00) @ 7F Room 708	Made to Play (13:30 – 13:45) @ 3F Cosmos Hall			
13:30			Making Change Happen How to Build Communities through Sport? (13:45 – 15:00) @ 3F Cosmos Hall			
14:00						
14:30						
15:00	Regional Meetings [Europe] (15:00 – 17:00) @ 7F Room 707	Regional Meetings [Africa] (15:00 – 17:00) @ 7F Room 708	Coffee break & networking (15:00 – 15:30) @ 3F			
15:30			Parallel Session #1 Gender Equality in Sport for All (15:30 – 17:00) @ 6F Room 601	Parallel Session #2 Global Active City (15:30 – 17:00) @ 3F Cosmos Hall	Parallel Session #3 Active City Innovation (15:30 – 17:00) @ 5F Subaru Room	Parallel Session #4 Adapting Cities to an Aging Society (15:30 – 17:00) @ 7F Room 706
16:00						
16:30						
17:00			Parallel Session Wrap Up (17:00 – 17:15) @3F Cosmos Hall			
17:30			Closing of the Smart Cities & Sport Summit and 26 th TAFISA World Congress Joint Day (17:15 – 17:45) @3F Cosmos Hall			
18:00			Break @ 3F TAFISA Student Paper Session @ 7F Room 707 , 708 (17:45 – 18:45)			
18:30						
19:00	Networking Cocktail (19:00 – 21:00) @ 5F Orion		Welcome Reception & Dinner (19:00 – 22:00) @ 3F Cosmos Hall			
19:30						
20:00						
20:30						
21:00						
21:30						
22:00						

	FRIDAY 15 th NOVEMBER		SATURDAY 16 th NOVEMBER
9:00	House of Commons Debate (9:00 – 10:30) @ 3F Cosmos Hall 2		Sport Day: 'Undo-kai' (9:00 – 12:00) @ Kojimachi Junior High School
9:30			
10:00			
10:30	Break (10:30 – 11:00) @ 3F		
11:00	TAFISA Workshop (11:00 – 12:00) @ 3F Cosmos Hall 1		
11:30			
12:00	Lunch (12:00 – 13:00) @ 5F		Lunch (12:00 – 14:00) @ 3F Cosmos Hall
12:30			
13:00	PARALLEL SESSION 1: "Happy Aging" (13:00 – 14:30) @ 3F Cosmos Hall 1	PARALLEL SESSION 2: "Made to Play" (13:00 – 14:30) @ 3F Cosmos Hall 2	
13:30			
14:00	Break (14:30 – 15:00) @ 3F		
14:30	PARALLEL SESSION 3: "Design Your Policy" (15:00 – 16:30) @ 3F Cosmos Hall 1	PARALLEL SESSION 4: "Impact Through Innovation" (15:00 – 16:30) @ 3F Cosmos Hall 2	Free Afternoon / Tourist Programme Upon Request (14:00 – 18:00)
15:00			
15:30			
16:00	Registration to TAFISA General Assembly (16:30 – 17:00)		
16:30	General Assembly (17:00 – 19:00) @ 3F Cosmos Hall 2		
17:00			
17:30			
18:00	Closing Ceremony & Gala Dinner (18:00 – 22:00) @ 3F Cosmos Hall		
18:30			
19:00			
19:30			
20:00			
20:30			
21:00			
21:30			
22:00			

プログラム

11月13日(水)	
	参加者登録
13:00 - 15:00	TAFISA 地域組織会議① (関係者のみ) - アジア、オセアニア - アメリカ
15:00 - 17:00	TAFISA 地域組織会議② (関係者のみ) - ヨーロッパ - アフリカ
19:00 - 21:00	ネットワーキングカクテル

11月14日(木) Smart Cities & Sport Summit との合同イベント	
9:00 - 9:30	コンGRESS参加者登録
9:30 - 11:00	TAFISA ワールドコンGRESS 2019 オープニングセレモニー 司会 Bill Morris ウェルカムスピーチ - 伊藤雅俊：第26回 TAFISA ワールドコンGRESS 2019 組織委員会 会長 (日本) - Dr. Ju-Ho Chang：TAFISA 会長 (韓国) - Grégoire Junod：オリンピック開催都市連合 会長 (スイス) - Felicite Rwemarika：IOC スポーツアンドアクティブソサイエティ委員 (ルワンダ) - 笹川陽平：日本財団 会長、WHO ハンセン病制圧大使 (日本) 基調講演 - Prof. Stuart Biddle：サザンクイーンズランド大学 (オーストラリア) 「身体活動とスポーツ・フォー・オール：伝統と革新～どのようなアプローチがベストなのか」 - 鈴木大地：スポーツ庁長官 (日本) 「スポーツ・フォー・オールに向けた我が国の取組」
11:00 - 11:30	ポスター発表 コーディネーター - 山口泰雄：TAFISA 理事 (日本)

11:30 - 12:30	<p>全体セッション① Smart Cities & Sport とスポーツ・フォー・オールの架け橋を築く (Building Bridges Smart Cities & Sport and the Sport for All Movement)</p> <p>オリンピック開催都市連合による「Smart Cities & Sport」とTAFISAによる「スポーツ・フォー・オールムーブメント」の架け橋を築くセッション。 両組織の専門性から多くのことを学べるユニークな機会を提供いたします。人々が運動不足を解消し、アクティブに活動できる社会づくりを目指す 2つの組織が互いの経験とノウハウを共有いたします。</p> <p>パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> - David Simon : オリンピック開催都市連合副会長、ロサンゼルス (アメリカ) - Wolfgang Baumann : TAFISA 事務局長 (ドイツ) - Felicite Rwemarika : IOC スポーツアンドアクティブソサイエティ委員会 (ルワンダ) - 本間恵子 : 日本スポーツ振興センター 情報・国際部/TAFISA-JAPAN 理事 (日本) - Mickel Beckers : ロッテルダム市スポーツ・教育・文化担当ディレクター (オランダ) <p>基調講演</p> <ul style="list-style-type: none"> - Prof. Keith George : リバプール・ジョン・ムーア大学 (イギリス)
12:30 - 13:30	<p>ランチ&ネットワーキング</p>
13:30 - 13:45	<p>全体セッション② “Made to Play” *まちはいかに子どもたちの未来をアクティブに変えられるか? (Made to Play - How Cities Can Shape the Lives of Future Generations?)</p> <p>基調講演</p> <ul style="list-style-type: none"> - Caitlin Morris : General Manager, Social & Community Impact, Nike, Inc. (アメリカ) <p><small>*Made to Play は、TAFISA の支援組織である NIKE による子どもの身体活動増進プログラムの名称です。</small></p>
13:45 - 15:00	<p>全体セッション③ 変化を起こせ! スポーツを通じてコミュニティを形成するには? (Making Change Happen How to Build Communities through Sport?)</p> <p>スポーツは、私たちが思い描く理想の将来を築くうえで重要な役割を果します。 スポーツには人々の人生を変え、社会を変え、真の意味でのコミュニティ形成に寄与する力があります。 一方で、私たちに今この社会をスポーツによってどのように変え、次世代に引き継いでいきたいのかを真剣に考えることが求められています。</p> <p>スピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> - 長村佳子 : IAKS: 国際余暇スポーツ施設協会日本支部 (日本) - 原島 翠 : 長野県スポーツ少年団指導育成部会部会員 (日本) - Yoan Noguier : ユヌススポーツハブ 共同創設者・ディレクター (フランス)
15:00 - 15:30	<p>コーヒーブレイク&ネットワーキング</p>

<p>15:30 – 17:00</p>	<p>分科会 1 “スポーツ・フォー・オールにおける男女の平等” (Gender Equality in Sport for All)</p> <p>スポーツ・フォー・オールムーブメントが、真に「すべてのひとのためのスポーツ」と定義づけられるためには、それを推進する団体のマネジメントからプログラム実施のすべての局面において、「男女の平等」が保たれなければなりません。</p> <p>司会 Lilamani de Soysa : IWG : 世界女性スポーツ会議 (スイス)</p> <p>スピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> - Game Mothibi : IWG : 世界女性スポーツ会議 (ボツワナ) [Gender Equality in Sport for All] - Mitra Rouhi-Dehkordi : TAFISA 理事 (イラン) [The Role of Sport Organizations in Creating Equal Opportunities in Iran] - 小笠原悦子 : 順天堂大学教授 (日本) [Important Aspect of Gender and Sport] - Erika Borsanyi : FITEQ 連盟 (ハンガリー) [International Working Group (IWG) on Women & Sport] 	<p>分科会 2 “グローバル・アクティブシティ” (Global Active City)</p> <p>スピーカーは全員、自身のまちの住民をアクティブに変えることに成功した人たちです。彼らのノウハウに学び、ご自身の今の努力を IOC による国際的な認証制度 [Global Active City 認証] に結びつける方法を学んでみませんか?</p> <p>司会 Jean-François Laurent : TAFISA ジュニアディレクター (フランス)</p> <p>スピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> - Christoph Holstein : ハンブルク市 (ドイツ) - Dejan Crnek : リュブリャナ 副市長 (スロベニア) - Ibrahima Diame : ダカール市スポーツ・レジャー青年委員会 委員長 (セネガル) [Global active city on the road to Dakar 2022]
	<p>分科会 3 “アクティブシティのイノベーション” (Active City Innovation)</p> <p>社会の他分野と同様、スポーツの世界にもイノベーションがあちこちで起こっています。よりアクティブな住民を生み出すために、新たなテクノロジーは、まちにどのようなイノベーションを起こせるのでしょうか?</p> <p>司会 Eckehard Fozzy Moritz : Innovationsmanufaktur (ドイツ)</p> <p>スピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> - Joris Wils : アントワープ市 (ベルギー) [Encouraging Citizens to be more Active Using Big Data] - Jakub Kalinowski : V4 スポーツ財団 (ポーランド) [Data-Driven Policymaking in the Area of Health and Physical Activity of Kids] <p>パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> - Keri McDonald : TAFISA 事業開発・ファンドレイジングマネージャー (スコットランド) - Tom Fritz : マックス・プランク研究所 (ドイツ) - 安藤良一 : 超人スポーツ協会ディレクター (日本) - 伊藤尚徳 : 住友ゴム工業/ダンロップスポーツ (日本) - 宮地 力 : 東京大学 (日本) 	<p>分科会 4 “高齢社会に向けたまちづくり” (Adapting Cities to an Aging Society)</p> <p>今世紀に入り、高齢化は世界中で重要な社会変化をもたらしています。この変化に対して、まちはスポーツを通じてどのような準備をするべきでしょうか?</p> <p>司会 Malgorzata Szukalska-Wrona : スポーツ・観光庁 (ポーランド)</p> <p>スピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> - Finn Berggren : Gerlev Sports Academy (デンマーク) [Active Aging in Active Cities Sports and Physical Activity in later life in Denmark] - 山口泰雄 : TAFISA 理事 (日本) [Active Seniors Make Smart Cities] - 阿部篤志 : 日本スポーツ振興センター 情報・国際部 スポーツ政策・情報ディレクター (日本) [Future Consideration for Sport Policy on Preventing Frailty in Japan]
<p>17:00 – 17:15</p>	<p>分科会のまとめ (4 分科会の司会による総括)</p>	

17:15 - 17:45	<p>全体セッション④ クロージング (Smart Cities & Sport Summit、第26回 TAFISA ワールドコンGRESS 2019 東京合同イベント)</p> <p>アクティブなまち&ひとづくりの未来に向けた2つの組織による大きな第一歩が踏み出されたことを記念して、“Call for Action (活動宣言文)”を宣言します。また、両組織間で今後の連携に向けた覚書が取り交わされます。</p> <p>宣言 [TAFISA-World Union of Olympic Cities Call for Action on Active Cities]</p> <ul style="list-style-type: none"> - Catherine Forde : TAFISA 副会長 (トリニダード・トバゴ共和国) <p>署名式典</p>
17:45 - 18:45	<p>TAFISA スチューデントペーパーアワード・セッション</p> <p>これからのスポーツの発展をアカデミックな見地から支えることを目的として、スポーツ研究分野の専門家、大学生・大学院生らが、自身の最新の調査結果等をポスターにまとめて発表を行います。今後のスポーツの発展に資する、刺激的で興味深い分析結果が報告されます。</p>
19:00 - 22:00	<p>ウェルカムレセプション</p> <p>TAFISA スチューデントペーパーアワード表彰</p> <ul style="list-style-type: none"> - 文化パフォーマンス



11月15日(金)

9:00 - 10:30	<p>議会式ディベート (House of Commons Debate) 「スポーツ・フォー・オール ～伝統と革新～」</p> <p>司会 Peter Barendse : TAFISA 理事 (オランダ)</p> <p>議題提供者</p> <ul style="list-style-type: none"> - Wendy Gillett : ブルーアース財団 (オーストラリア) - Keith Joseph : パナムスポーツ機構 (セントビンセント及びグレナディーン諸島) - Prof. Keith George : リバプール・ジョン・ムーア大学 (イギリス)
10:30 - 11:00	<p>コーヒーブレイク</p>
11:00 - 12:00	<p>TAFISA ワークショップ (TAFISA Workshop) 「TAFISA ミッション 2030 : スポーツ・フォー・オールムーブメントのSDGs (持続可能な開発目標) への貢献とそのロードマップ」</p> <p>TAFISA ワークショップでは、TAFISA のメンバー、パートナー、および現場にいるすべての出資者が、世界のグローバルな課題に取り組み、変化をもたらすために、どのような対応策を取り、一丸となって取り組んでいくべきかを検討します。</p> <p>司会 Dionysios Karakasis : TAFISA 理事 (ギリシャ)</p> <p>スピーカー</p> <ul style="list-style-type: none"> - Gaetan Garcia : TAFISA (フランス) 「TAFISA Mission 2030 報告および次なるステップについて」 - Kwangsu Kim : One Channel (韓国) 「TAFISA One Channel プロジェクト」 - TAFISA の次世代リーダーより

	<p>“TAFISA World Sport for All Games 2020 Lisbon”</p> <ul style="list-style-type: none"> - Vitor Pataco : Portuguese Institute for Sport and Youth (ポルトガル) <p>TAFISA のパートナー組織紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> - Mansour Nader : Playfit (ドイツ) - Ho-Cheol Lee : Nassau (韓国) 	
12:00 – 13:00	<p>ランチ&ネットワーキング</p>	
13:00 – 14:30	<p>分科会 1 “スポーツが幸せな長寿を創る” (Happy Aging)</p> <p>司会 山口泰雄 : TAFISA 理事 (日本)</p> <p>議論喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> - 内田勇人 : 兵庫県立大学教授 (日本) [~ Happy Aging ~ スポーツが幸せな長寿を創る] <p>事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> - Mutlu Turkmen : International Bocce Confederation (トルコ) [Nursery Homes Bocce (Bowls/Boules) League] - Flavia Epureanu : ルーマニア スポーツ・フォー・オール連盟 (ルーマニア) [Happy Aging in Romania] - 長ヶ原 誠 : 神戸大学教授 (日本) [Active Aging : Masters Sports Promotion in Japan] - Hank Jwo : 台湾オリンピック委員会 (台湾) [Successful aging: Case of cognitive-behavioral approach to promote physical activity for older adults in Taipei] 	<p>分科会 2 “Made to Play”</p> <p>司会 Herzel Hagay : TAFISA 理事 (イスラエル)</p> <p>議論喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> - Prof Henry Daut : フィリピン・スポーツコミッション (フィリピン) [Made to Play: The Philippine Experience] <p>事例紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> - Leandro Olvech : Director、国際卓球連盟財団 (ドイツ) [Table Tennis. For All. For Life.] - Maria Luiza Souza Dias : SESC SP (ブラジル) [Made to Play] - 佐藤善人 : 東京学芸大学准教授 (日本) [Let's be active ~Active Child Program (ACP)~アクティブ・チャイルド・プログラムを活用した貢献] - Eugene Nzabanterura : ルワンダオリンピック委員会 (ルワンダ) [Sports For All In Rwanda]
14:30 – 15:00	<p>コーヒーブレイク</p>	
15:00 – 16:30	<p>分科会 3 “スポーツ政策を形成する” (Design Your Policy)</p> <p>司会 Janez Sodrznik : TAFISA 理事 (スロベニア)</p> <p>議論喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> - 鎌田真光 : 東京大学助教 (日本) [Population strategies for promoting physical activity : social marketing and gamification techniques] 	<p>分科会 4 “スポーツ・イノベーションが社会を変える” (Impact Through Innovation)</p> <p>司会 Leonard Thadeo : TAFISA 理事 (タンザニア)</p> <p>議論喚起</p> <ul style="list-style-type: none"> - Ian Wright : 世界バドミントン連盟 (マレーシア) [Air Badminton The New Outdoor Game]

	事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> - Chantal Buchser : IOC (スイス) [IOC Sport & Active Society Commission] - Andreas Silbersack : DOSB (ドイツ) [Contribution of Sport for All to German Development Cooperation] - Vladimir Sengleev : ロシアオリンピック委員会 (ロシア) [The Russian Olympic Committee's Activities in Developing Grassroots Sports] - Shaima Saleh Alhusseini : サウジアラビアスポーツ・フォー・オール連盟 (サウジアラビア) [Sports for All] 	事例紹介 <ul style="list-style-type: none"> - 安藤良一 : 超人スポーツ協会ディレクター (日本) [超人スポーツによる共創社会の実現] - Ray Sweeney : International Ikkaido Federation (イギリス) [EVA-FEM Empowerment, Vitality and Assertiveness Female Education through Mentoring] - Pia Pauly : ドイツ体操連盟 (ドイツ) [An exciting tool to support people to be more physical active] - David Minton : The Leisure Database Company (イギリス) [Impact through Innovation]
16:30 - 17:00	TAFISA 総会参加登録 (TAFISA 会員)	
17:00 - 19:00	TAFISA 総会 (TAFISA 会員)	

11月16日(土)

9:00 - 12:00	スポーツデイ 日本の運動会 & さまざまなスポーツ体験 主に学校や地域で行われる日本の伝統的スポーツフェスティバル・運動会を開催します。たくさんの面白くて革新的なスポーツを体験できます。 <ul style="list-style-type: none"> - レクリエーションスポーツ - ボッチャ - スライドリフト (超人スポーツ) - Air バドミントン - Hanguk (韓国のニュースポーツ) 他 	運動会協賛  
12:00 - 14:00	ランチ&ネットワーキング	
14:00 - 18:00	自由時間 / (希望者向け観光プログラム等)	
18:00 - 22:00	クロージングセレモニー & ガラディナー <ul style="list-style-type: none"> - コンGRESS総括 報告者 Prof. Stuart Biddle : サザンクイーンズランド大学 (オーストラリア) 共同報告者 山本真由美 : 日本アンチ・ドーピング機構シニアマネージャー (日本) - TAFISA 会長挨拶 - TAFISA から組織委員会への謝意 - TAFISA アワード表彰式 - 第27回 TAFISA ワールドコンGRESS 2021 スロベニアへの大会旗の伝達と同組織委員会による歓迎スピーチ - 文化パフォーマンス 他 	

11月17日(日)

終日	チェックアウト&帰国
----	-----------------------

基調講演

身体活動とスポーツ・フォー・オール： 伝統と革新—どのようなアプローチがベストなのか—

Stuart Biddle

サザンクイーンズランド大学教授 (オーストラリア)



本プレゼンテーションでは、身体活動とスポーツ・フォー・オールにおける4つのテーマを取り上げます。この分野は急激な改革が進んでいます。特に“24時間ガイドライン”と呼んでいるガイドラインや行動変容について言及します。

本来、スポーツ、身体活動、エリートスポーツ、グラスルーツスポーツなど、どのような呼び方をしようと、スポーツ・フォー・オールは世界をより良いものにする力を持っています。スポーツは、運動(エクササイズ)と一部重なりつつ、身体活動(フィジカルアクティビティ)に含まれると定義されます。その目的には健康、体力向上、教育、人格形成などが挙げられるでしょう。

アメリカスポーツ医学会で、体力や健康に運動が重要な要素であることが初めて論文として報告されたのは1978年でした。41年前から、身体活動の増加とスポーツ・フォー・オールの普及は同じ方向を向いて啓発活動が行われてきました。

近年、身体活動の分野に3つの変革があります。1つは、運動と身体活動ガイドラインの進化です。人は、1日24時間のうち40%は座りっぱなし、25%は軽い身体活動で、中等度の運動を行っている時間は2%程度です。そこで、起きている時間すべてに焦点をあて、職場で座っている時間を減らし、移動は車を使わず歩いたり自転車に乗ったり、健康的なライフスタイルを実践することを推奨しています。オーストラリアでは子どもには、10時間前後の睡眠、1日1時間程度の運動、それ以外の時間も座る時間を減らすなど、活発に動くことを24時間時計で示しています。

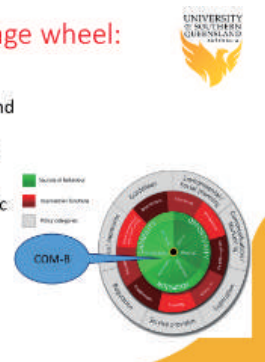
2つ目は、健康のためだけにスポーツをするわけではないということです。医者から言われたからやるのではなく、やりたいという気持ちが大切なのです。

そして3つ目が、行動変容です。行動を変えるには、個々の心身への働きかけ、とりまく環境や機会、自動的に習慣化させてしまうアプローチが必要です。政策立案者には健康であることのメリットが、個々人には生活の質の向上、前向きなエネルギー、社会とのつながりなどが動機づけになるでしょう。実は、動機の高さよりも、簡単に、より楽しく、行いやすくすることの方が大切です。そういった行動変容科学を盛り込んだアクティブシティをつくっていくことが最も効果的なアプローチなのです。

(文責・コンgress組織委員会)

Behaviour change wheel: 'COM-B'

- **Capability:** physical and psychological
- **Opportunity:** physical and social
- **Motivation:** automatic and reflective



Stuart Biddle

オーストラリア・サザンクイーンズランド大学教授、活発なライフスタイル研究 (Physically Active Lifestyles Research) グループプログラムリーダー。英国キール大学卒業。博士 (心理学)。専門は身体活動と座位行動における行動変容、身体活動心理学。オーストラリア、カナダ、イギリス、シンガポール等で、身体活動・座位行動に関する国のガイドラインの作成に参画。

基調講演

スポーツ・フォー・オールに向けた我が国の取組



鈴木 大地
スポーツ庁長官

本コンGRESの半月前まで、我が国ではラグビーワールドカップ 2019 日本大会が開催され、日本各地で大いに盛り上がりました。スポーツには人々に楽しみを与え、人生を豊かにする力があります。それは「するスポーツ」に限りません。ラグビーワールドカップにおける日本代表チームの活躍は多くの国民に勇気や感動を届けてくれました。2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会でも、多くの国民がそうした「スポーツの力」を体験すると思いますし、ワールドマスターズゲームズ関西 2021 では世界各国から「するスポーツ」を楽しむ方々が集まるでしょう。スポーツ庁としても、このような「スポーツの力」を全国に広め、「スポーツ・フォー・オール」の理念を実現していきたいと考えています。

今我が国では、運動不足で年間約5万人の方が亡くなっています。そして世界中のどこの国も経験したことがないスピードで高齢化が進んでいます。さらに大きな社会課題として、国家予算の3分の1を占めるほどの国民医療費の増大が挙げられます。

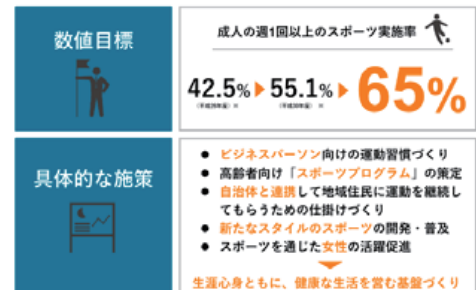
このような社会課題に対して、アクティブな国民、アクティブな高齢者をどのように増やしていくのかは、スポーツ庁の重要なミッションの一つだと考えています。

ひとつめは、「FUN + WALK PROJECT」。忙しいビジネスパーソンに、通勤の時間などを活用してもらい、「歩く」と「楽しい」を組み合わせることで自然と「歩く」習慣を身につけてもらうということを進めています。

ふたつめは、従業員に対し積極的にスポーツの実施を促す取組を行っている企業を、「スポーツ・エール・カンパニー」として認定しています。制度創設以降、347社を認定してきました。

みっつめは、今年(2019年)から始めた「Sport in Life」プロジェクトです。「Sport in Life」とは、一人でも多くの方がスポーツに親しむ社会の実現を目的としてスポーツ庁が目指す、生活の中に自然とスポーツが取り込まれている姿であり、2020年東京オリンピック・パラリンピックのレガシーと位置付けています。オリンピック・パラリンピックを開催することで、多くの国民がスポーツを楽しむようになる、より健康になる、そういう「日本モデル・東京モデル」を世界に発信していきたい。そのために、本プロジェクトを地方公共団体、スポーツ団体、経済団体、企業などオールジャパンで推進し、一人一人が自発的にスポーツに取り組み、前向きで活力ある社会と絆の強い世界を創っていきたくと考えています。

(文責・コンGRES組織委員会)



鈴木大地 (すずき・だいち)

スポーツ庁初代長官。1967年、千葉県生まれ。1988年のソウルオリンピック100メートル背泳ぎで金メダルを獲得。1993年順天堂大学大学院体育学研究科コーチ学修了。医学博士。順天堂大学教授等を経て2015年から現職。ほかに、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会理事等。

ポスタープレゼンテーション



All Abstracts

General

Session 1	Session 2
<p>“The expenditure of the Brazilian Ministry of Sport with Sport for All from 2003 to 2018” Fernando Henrique Silva Carneiro (Federal Institute of Goiás, Brazil) Fernando Mascarenhas (University of Brasilia, Brazil)</p>	<p>“A study on the revenue generation and distribution system of professional sports leagues in India” Asish Paul (Jadavpur University, India) Ankan Banerjee (Indian Institute of Social Welfare and Business Management, India)</p>
<p>“The development for solving community problems learning in health and physical education lesson” Kei Shibayama (National Institute of Technology, Hiroshima College, Japan) Shin Hashimoto (National Institute of Technology, Hiroshima College, Japan)</p>	<p>“A study on the effects of visualization during workers’ health measurements” Yumiko Hagi (Tokai University, Japan) Natsumi Watanabe (Tokyo YMCA, Japan) Hatsuki Nishi (Tokai University, Japan) Naofumi Yamamoto (Ehime University, Japan) Masashi Kawanishi (Hokuso University, Japan)</p>
<p>“Sport for All policies in Japan: Global trend and domestic social challenges” Keiko Homma (Japan Sport Council, Japan)</p>	<p>“Key factors and new framework for structuring effective relationship promoting initial steps of organizational transformation of rugby team” Naoto Shoji (Asahi University, Japan) Yoshihisa Ono (Suzuka University, Japan)</p>
<p>“Txuna Maputo: Sport for All, municipal policy” Edmundo Ribeiro (Municipality of Maputo City, Mozambique) Salazar Picardo (Municipality of Maputo City, Mozambique)</p>	<p>“Analysis of team performance with different promotional factors of hero Indian Super league, 2016” Sumanta Daw (Jadavpur University, India) Atanu Gosh (Jadavpur University, India)</p>
<p>“Developing inclusive dance focusing on dance expression using the head and facial movements” Rie Kojima (Kobe Women’s University, Japan) Kyoko Ito (Osaka University, Japan)</p>	<p>“Revitalizing college sports as a catalyst for university innovation in Japan: Considering from an organizational view” Masaru Ito (Teikyo University Institute of Sports Science & Medicine, Japan)</p>
<p>“Sports for health and fitness: Strengthen Sport for All movement through traditional sports & games” Suresh Deshpande (National Association of Physical Education & Sports, India) Sayyad M. Quadri (National Association of Physical Education & Sports, India)</p>	<p>“Reasons of reluctances Kuwaiti people from some sports recreational activities: Walking, jogging and running” Khalifa Taleb Behbehani (Al. Arabi Sporting Club, Kuwait)</p>
<p>“Comparison of femur density and content between elite child Egyptian artistic gymnasts and swimmers” Yehia M. Elhariri (Alexandria University, Egypt)</p>	<p>“The Anti-Doping Values in Coach Education (ADVICE) Project” Adam Nicholls & Lucas Fairs (School of Life Science, Faculty of Health Sciences, University of Hull, UK)</p>

Student Paper Award

Session 1	Session 2
<p>★ 優秀賞</p> <p>“The relationship between Japanese outdoor sport participants’ place attachment and pro-environment behavior for developing sustainable outdoor sport tourism” An Uesugi (Juntendo University, Japan) Yasuhiro Kudo (Juntendo University, Japan)</p>	<p>“Facilitative factors on career patterns of sports participation in Middle-aged and older adults: A comparative study” Yuki Matsumura (Kobe University, Japan)</p>
<p>“Factors affecting masters sports enthusiasts’ desire to participate in WMG2021 Kansai” Kohei Yamashita (Kobe University, Japan)</p>	<p>“A comparative review of qualitative data analysis: Through the case of social inclusion approach through sport at Kodomo Shokudo” Ryuto Nakai (Osaka University, Japan)</p>
<p>★ 最優秀賞</p> <p>“Formation process of inter-organizational network on World Masters Games 2021 Kansai: Focusing on pre-event phase” Jun Matsuzaki (Kobe University, Japan)</p>	<p>“Relationship between protest action against referees and respect to them among Japanese University football players” Kyosuke Enomoto (Hosei University, Japan) Hirokazu Arai (Hosei University, Japan)</p>
<p>“An examination of mood change before and after rafting activity” Moe Nikaido (Tokai University, Japan) Naomi Yoshioka (Tokai University, Japan) Yumiko Hagi (Tokai University, Japan)</p>	<p>“Factors related to discontinuation of exercise/ sports: Focusing on affiliation with club activities in school age” Junki Inui (Kobe University, Japan)</p>
<p>“The effect of volunteers’ self experience of focusing on their careers: A case study of Masters Koshien” Keita Miura (Kobe University, Japan)</p>	<p>“Classification of athlete volunteer activities: How athletes contribute to society and community?” Waku Ogiso (Waseda University, Japan) Yoshiyuki Mano (Waseda University, Japan)</p>
<p>“Process evaluation of programmes related to sports events in the preparation phase: Focusing on the host cities of the World Masters Games 2021” Toshiaki Deto (Kobe University, Japan)</p>	<p>“The skills of the good coach: From the perspectives of soccer coaches” Tomohiro Shimizu (Hosei University, Japan) Hirokazu Arai (Hosei University, Japan)</p>
<p>“Invitation process of the pre-games training camp for Tokyo 2020 in Toyooka City: New possibilities through a partnership agreement with the National Federation” Masaki Aoyama (Kobe University, Japan)</p>	

★ Student Paper Award 受賞

大会点描

11月13日

● 地域組織会議



● ネットワーキングカクテル



11月14日

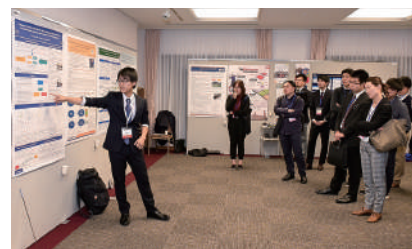
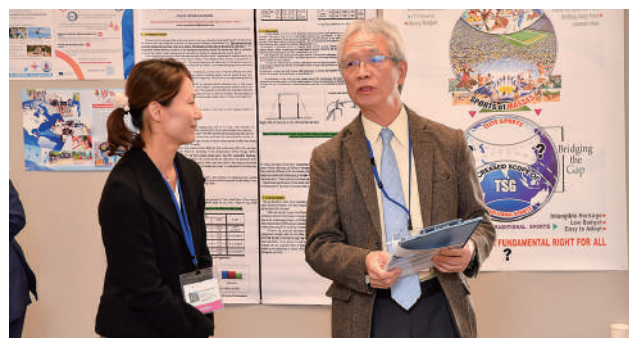
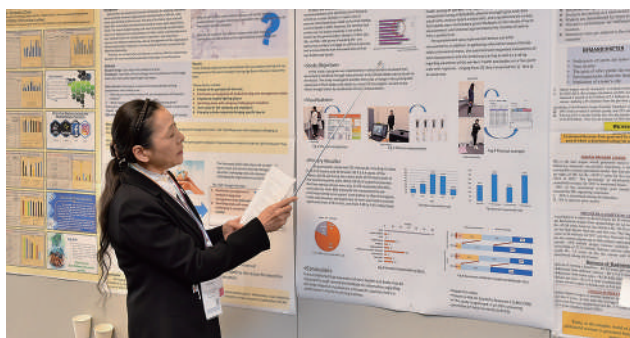
● オープニング



● 全体セッション



● ポスター



● 分科会



●活動宣言及び署名式典



●ポスターアワード&レセプション



11月15日

● ディベート



● ワークショップ



●分科会



●総会



11月16日

● 運動会



●クロージングディナー



コンGRES組織委員会

2019年11月13日現在

会 長	伊藤 雅俊 (TAFISA-JAPAN 会長、公益財団法人日本スポーツ協会会長)
副会長	山口 泰雄 (TAFISA 理事、TAFISA-JAPAN 理事、神戸大学名誉教授、流通科学大学特任教授)
副会長	下光 輝一 (TAFISA-JAPAN 副会長、公益財団法人健康・体力づくり事業財団理事長)
副会長	樋口 修資 (TAFISA-JAPAN 副会長、公益財団法人日本レクリエーション協会理事長)
副会長	渡邊 一利 (TAFISA-JAPAN 副会長、公益財団法人笹川スポーツ財団理事長)
委 員	ウルフガング・バウマン (TAFISA 事務局長)
委 員	泉 正文 (TAFISA-JAPAN 理事、公益財団法人日本スポーツ協会副会長兼専務理事)
委 員	河原塚 達樹 (TAFISA-JAPAN 理事、公益財団法人日本レクリエーション協会常務理事)
委 員	中島 光 (TAFISA-JAPAN 理事、公益財団法人笹川スポーツ財団常務理事)
委 員	増田 和茂 (TAFISA-JAPAN 理事、公益財団法人健康・体力づくり事業財団常務理事)
委 員	松尾 哲矢 (学識経験者〔立教大学教授〕)
委 員	工藤 康宏 (学識経験者〔順天堂大学先任准教授〕)
委 員	齋藤 泰雄 (公益財団法人日本オリンピック委員会顧問)
委 員	山田 登志夫 (公益財団法人日本障がい者スポーツ協会常務理事)
監 事	並木 一夫 (TAFISA-JAPAN 監事、日本スポーツ協会評議員)

TAFISA-JAPAN 構成団体

TAFISA-JAPAN は、TAFISA とともに日本のスポーツ・フォー・オールを推進するために、1992年、4団体により設立されました。

●公益財団法人日本スポーツ協会 日本スポーツ協会 Japan Sport Association

スポーツと、望む未来へ。You are the future of sport.

日本スポーツ協会は、日本におけるスポーツの統一組織としてスポーツを推進し、すべての人々が主体的にスポーツを楽しむことができるようにするとともに、フェアプレー精神を広め深めることを通して、多様な人々が共生する平和と友好に満ちた持続可能で豊かな社会づくりを目指しています。

(主な事業)

1. イベント事業：国民体育大会、国際交流・協力等、人々が一堂に会してスポーツを楽しむ機会を提供
2. クラブ/エリア事業：スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブの育成・支援等、日常生活に密着したスポーツ享受を推進
3. ソフトインフラ事業：スポーツ指導者の育成、スポーツ医・科学の研究等、スポーツの享受と量的拡大と質的深化を支援

●公益財団法人健康・体力づくり事業財団 公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 JAPAN HEALTH PROMOTION & FITNESS FOUNDATION

国民すべてが幸福で健やかな人生を全うできることを目指し、健康・体力づくりの普及・啓発を行っています。

(主な事業)

1. 最新・正確な情報提供や、誰もが実践しやすい運動プログラムと環境の提案等を通じた健康・体力づくりの普及・啓発
2. 健康運動指導士、健康運動実践指導者をはじめとした健康・体力づくり指導者の養成と資質向上
3. 健康・体力づくりに関する情報収集や、運動・身体活動を中心とした健康・体力づくりを推進するための調査研究

●公益財団法人笹川スポーツ財団 笹川スポーツ財団 SASAKAWA SPORTS FOUNDATION

ミッション：Sport for Everyone 社会の実現

“Sport for Everyone” とは、一人ひとりが自分の生き方や興味関心に即してスポーツを楽しんでいる世界観を表しています。スポーツ分野のシンクタンクとして、「誰でも・どこでも・いつでも」スポーツが楽しめ、スポーツがより良い生活環境を形づくる、そんな社会の実現を使命としています。

(主な事業)

1. 研究調査：「地域活性化」「子どものスポーツ」等7つの重点テーマに基づく各種データ収集、研究レポート、政策提言の策定
2. 自治体との連携：“TAFISA ワールド・チャレンジデー”の日本におけるコーディネートおよび、自治体のスポーツ政策立案に役立つ各種データや研究成果の提供、提言等

●公益財団法人日本レクリエーション協会 公益財団法人 日本レクリエーション協会 National Recreation Association of Japan

Smile for all ～すべてはみんなの笑顔のために～

レクリエーション指導者の養成事業をはじめ、レクリエーションを原動力として、市民と共に地域の活性を図る活動を多彩に繰り広げる公益財団です。「スポーツ実施率の向上」に向けて、元気アップ・プログラムを展開しています。

(主な事業)

1. イベント：全国レクリエーション大会・全国会議の開催など
2. 人材養成：レクリエーション・インストラクター、レクリエーション・コーディネーター、スポーツ・レクリエーション指導者等を養成
3. 研修・講習会：レクリエーションをテーマにした教員免許更新講習や子どもたちの体力向上プログラムの提供
4. 調査・研究：研究誌『自由時間研究』の発行



TAFISAサポーター

